

モグリンニュース

第10号(2006年2月)

<かぜは大丈夫ですか？>

雪がふったり、天気になったりと気象状況が安定しませんが、みなさんかぜなどひかれていますか？私は2月4日(土)にインフルエンザA型を発症し、ひどい目に会いました。ようやく今日復活し、職場復帰をしたのですが、職場からは忌み嫌われ、あちこちで「来るな！寄るな！」コールです。最近、医療が進んだためか、15分ほどあればインフルエンザか普通の風邪かがわかるようでたいしたものです。でもそのおかげで、インフルエンザとわかった瞬間、周囲の態度が激変します。

<1月の古代生活研修会について>

ようやく「まが玉作り」を行うことができました。でも今思い出すのは、みかんを焼いている姿や、もちを焼いている姿です。(あのもちはおいしかった！)

この日は、結局うまくいかず、残念でした。反省点として振り返ったのは、

鑄型を作ってすぐに焼くのは、やはり無理がある。

うまくできた人も、勾玉が鑄型から外れなかったものが多く、離型剤(アルミナの粉)が薄かったのかも・・・

もっと時間をかけて、勾玉を冷やしていかないといけないのではないか。

温度の上げ方も、いろいろ試す必要がある。

など、いろいろ課題も多くあがりました。



これで、終わりにしないのがみなさんのすごいところだと思います。「リベンジ！勾玉」で再度チャレンジすることとなりました。

1月の宿題で、鑄型を家で作って乾かしてもらっていますので、2月の研修会の際にまたお持ちください。このときは鑄型を焼くだけにして、また3月でも4月にでもガラスをつめてやってみましょう！



リベンジの炎が！！

<貸し出しのご案内>

1月に中村さんに「臼と杵」復元品の貸し出しを依頼されました。もちつき大会に使われるということでした。文化財課の資料や道具は、いつでも遠慮なく使ってください。学校だけではなく、地域活動や興味のある方に紹介するなど、いろいろな場面で活用してもらえればありがたいです。古代の本物の土器なども、お貸しできますので、ご相談いただければと思います。

<2月の古代生活研修会>

今月の第3土曜日、2月18日(土)10:00～、古代生活研修会を行います。今回は新たな取り組みとして、「古代の色」にチャレンジしてみましょう。昔から人間は布を作るというのは高等技術でした。糸の製作や織りもそうですが、染色も、専門技術の1つでした。草木や虫や貝殻やいろいろなものを使って、布に色をつけてきたのですが、染めは化学反応の最たるものでその不思議さは目を見張るものがあります。



発掘などで出土する遺物の雰囲気から、なんとなく古代社会は茶色や黒といったダークなイメージになりがちですが、キラキラした銅製品もあり、さまざまな草木からとるカラフルな色があり、結構パステルな世界だったかもしませんね。

18日は、皆さんに簡単なコースターを織って、織りの原理を見ていただき、その後、それらを草木染めしていただきたいと思います。麻がどういう色に染まるのか、色を定着させるときに、使う素材が違くと色はどうか、実際に目で確認してみてください。

講師に「岩西裕実子さん」を迎えて行きます。文化財展のスタッフとして来ていただいたので、谷口さんと舩田さんは顔を見られたらわかると思います。まだ若い方ですが、もう何年も染色をやってこられ、個展とかも開かれています。私もいつも教えていただいているのですが、親切に教えてくださいますので、みなさんもこの機会に聞いてみたいことがあれば、お聞きになってみてください。

今回は「茜」か「すおう」を使う予定です。草木染めの方法を習って、みなさん身近なものでも染色にチャレンジしてください。

もし、家に白いハンカチがあればご持参ください。シルクがベストなのですが、高くてとんでもないので綿で十分です。何枚かあればいいかもしれません。

また、鋳型も焼きましょう。ただ、時間もありますので、この日に焼けないにしても、持参しておいてください。

参加OKの方は、お手数ですがいつものように電話でもメールでも結構ですので、この3人の誰かに連絡をいただければありがたいです。それではお待ちしております。

連絡先 小林・稲坂・田原 まで

082 - 568 - 6511 FAX 082 - 568 - 6513

小林 n-kobaya@mogurin.or.jp 稲坂 ina@mogurin.or.jp 田原 tahara@mogurin.or.jp

文化財課ホームページ <http://www.mogurin.or.jp>